大阪市立大学大学院　都市系専攻
修士論文概要集 2019 年 2 月

在宅子育て世帯の育児環境の実態と課題に関する研究
—吹田市を対象とした子育て支援施設の評価—

STUDY ON ACTUAL SITUATION AND ISSUES OF CHILDCARE ENVIRONMENT FOR HOUSEHOLDS PARENTING AT HOME —THE EVALUATION OF CHILDCARE SUPPORT FACILITIES IN SUITA—

建築計画分野　　土居　和樹
Architectural Planning　　Kazuki DOI

地域における子育て環境の充実は、適切な人口構成や人口の安定的確保等の面で、地域づくりとも連動する大きな課題である。こうした子育て環境の課題に対して、わが国では子育てと就労の両立を支援する施策に注目が集まり、在宅子育て世帯の子育て環境については問題視される機会が乏しい。本稿では吹田市の在宅子育て世帯に対する子育て支援施設の実施実態と利用実態について分析する。さらに利用者による施設の位置付けを考察し、これからの地域子育て支援の展望について論じる。

It is issue related to regional development to enrich childcare environment for ensuring stable appropriate population structure. According to this issue, policy for compatibility of parenting and work attract attention in our country. And it is less that childcare environment for households parenting at home attract attention. This report clarify actual situation of implementation and use of childcare support facilities in Suita for households parenting at home. Furthermore this shows consideration of facilities position characterized by user and prospect of regional childcare support.

1. はじめに

1-1. 研究の背景と目的

近年、地域の教育力は低下傾向にある。地域社会における、人間関係や連帯感の希薄化などから、地域全体で子供を育てていく意識が低下しているのがその一因であろう。これに対して、子育て支援をはじめとした地域におけるハード・ソフトの子育て環境の充実は、地域の適切な人口構成や人口の安定的確保等の面で、地域づくりとも連動する課題となっており、子育て支援環境の低下は、地域社会において深刻な問題である。

こうした子育て環境の問題に関して、わが国では共働き世帯や一人親世帯、核家族の増加に伴い、待機児童解消へ向けた保育サービスの充足等、子育てと就労の両立を支援する施策に対して注目が集まっている。一方で、片働き世帯等による在宅子育てについては問題視される機会が少ない。しかし、在宅子育て世帯の子育て環境問題も、共働き・一人親世帯の子育て環境問題と等しく、地域づくりに対する大きな課題である。

そこで本稿では、転勤族が多く子育て支援の需要が高いと思われる吹田市において、在宅子育て世帯に対する子育て支援の実施実態、および子育て支援の利用実態を明らかにする。さらに、利用実態をもとに利用者による施設の位置付けを考察し、地域子育て支援の抱える課題とこれからの展望を示すことを目的とする。

1-2. 研究方法

吹田市の子育て支援の実施実態を把握するため、ウェブページで施設の利用可能日と時間、取り組み内容、利用形態について調査を行った。利用実態を把握するため、子育て広場で利用者に対してヒアリング調査を行った。

表 1　ヒアリング項目

1. 家庭での育児環境についてお聞きします。
　①家族構成を教えて下さい。
　②お子様の年齢を教えて下さい。
　③保護者様が専業主婦になられるか仕事に復帰されるか教えて下さい。
　④お子様が幼稚園と保育園どちらに進まれるか教えて下さい。

2. 家庭以外の育児環境についてお聞きします。
　①保護者様は吹田市出身か他地域から引っ越されてきたかどちらか教えて下さい。
　②実家の場所と育児に関する実家との関係性について教えて下さい。
　③所属しているサークルやグループ等あれば、活動頻度・活動内容・所属経緯を教えて下さい。

3. 子育て支援施設の利用についてお聞きします。
　①利用される施設及びサービス等あれば、施設名・利用頻度・内容を教えて下さい。
　②子育て支援施設を利用するようになった経緯を教えて下さい。

4. 基本的な 1 週間の過ごされ方についてお聞きします。
　①各曜日で外出される際の場所・時間・内容を教えて下さい。
　②自宅の場合も含めて、お子様の昼食と昼寝の時間を教えて下さい。
　③自宅の場所と外出先への移動経路を教えて下さい。

1-3. 既往研究

子育て支援施設に関する既往研究では、子育て支援施設の設置が始まった頃からの設置状況から、運営体制、運営実態、運営上の課題、そして利用者の実態、空間の利用実態に至るまで、数多くの研究が存在し成果が蓄積されている [1]。しかしながら、いずれの研究も一種類の施設に着目した分析に留まっており、他の施設利用と関連させた子育て支援施設の実態および利用実態については知見が不足していると考えられる。

したがって本稿では、子育て支援施設に限らず、在宅子育て世帯の生活に関わるあらゆる施設の利用実態について分析することで、子育て支援施設およびその他の施設も含めて、各施設の位置付けを明らかにする。

2. 子育て支援施設の実施実態（図 1）

吹田市の子育て支援事業の中で施設を持つ「子育て広場」「保育園・認定こども園・幼稚園」「児童会館・児童センター」「図書館」において最低でも 1 週間単位で行われている取り組みを調査対象とする。また、調査結果をまとめる上で重要な「公園」も子育て支援施設と同等として調査対象とする。

1）子育て広場：厚生労働省による地域子育て支援拠点事業の中の子育て支援拠点の一つ。子供は施設内の絵本やおもちゃを利用して室内遊びをする。保護者は他の保護者や施設のスタッフと交流する。特にプログラムは決められておらず、開室時間内であればいつでも利用可能。各自が自由に過ごす。

2）児童会館・児童センター：通常利用の内容は基本的に子育て広場と同様。幼児教室はスタッフ指導の下、親子で一緒に体操や手遊び､工作等を行う。月齢によって参加できる日時が決まる。申し込みは不要で指定の時間に施設を訪れれば利用することができる。

3）保育園・認定こども園・幼稚園：園庭開放とホール開放では施設の園庭やホールを利用することができる。施設によって利用日時が指定されている。申し込みは不要で指定の時間に施設を訪れれば利用することができる。育児教室の内容は基本的に児童会館・児童センターの幼児教室と同様。月齢によって参加できる日時が決まる。申し込みが必要でクラスが決められる。

4）図書館：通常利用では施設内の幼児用スペースを自由に利用して室内遊びができる。絵本読み聞かせ教室はスタッフ指導の下、絵本の読み聞かせを中心に、親子で一緒に体操や手遊び、工作等を行う。

5）公園：遊具等を利用して各自が自由に外遊びをする。いつでも利用することができる。

3. 子育て支援施設の利用実態

3-1. 利用者の属性（表 2）

1）母親と子供の進路：34 事例中、子供が幼稚園もしくは保育園に入園する予定である事例は 33 事例であり、残りは「仕事復帰済 × 保育園入園済」の 1 事例のみである（図 2）。ほとんどの母親が子供が入園するまでの期間に子育て支援施設を利用している。そのため、利用する子供の月齢は 3 歳児までとなっている（図 3）。本調査対象者に就学まで在宅子育てを行う事例は無い。

2）家族構成：34 事例中、父方の祖父と同居している【C-h】以外 33 事例が核家族である（図 4）。ほとんどの母親が日中 1 人で子供の面倒を見なければならない。

3）保護者の出身地:34 事例中「父･母ともに他地域出身」が 25 事例と最も多い（図 5）。夫の転勤や結婚、出産を機に引越した人が多く、核家族で家庭内に頼れる人がいない上に、実家の祖父母や友達等、家庭外にも身近に相談できる相手や頼れる相手がいない状況にある。

3-2. 生活パターンの分類

外出時間、施設の利用時間と利用頻度、利用施設の 3 項目によって、34 事例の 1 週間の過ごし方を 11 種類の生活パターンに分類することができる（表 3、図 6）。

1）非外出型：外出時間が短く自宅での滞在時間が長い。【B-e】【D-b】【D-c】【D-d】の 4 事例。子供の月齢が低いことが要因の一つ。子供の不規則な昼寝の時間と機嫌の変化に合わせて家事を行うため、外出の時間が限られる。外出先は子育て広場、児童会館、公園が挙げられる。子供の月齢が低くまだ遊べる時期ではないことから、外出は母親の気分転換としての役割が大きい。外出は子供次第のため予定が定まらない部分が多い。

2）一種集中型：外出時間の中で一種の施設の利用時間が大きな割合を占め、かつその施設の利用頻度が高い。

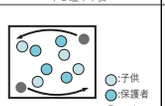
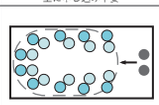
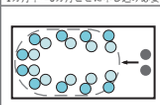
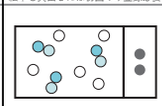
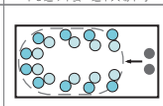
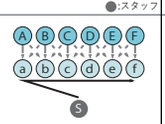
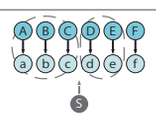
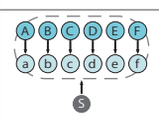
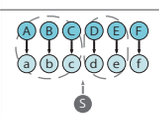
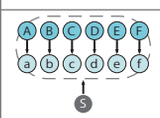
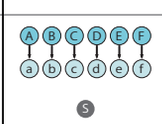
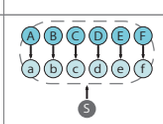
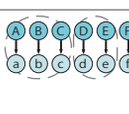
	子育て広場	児童会館・児童センター		保育園・認定こども園・幼稚園		図書館		公園
		通常利用	幼児教室	園庭・ホール開放	育児教室	通常利用	絵本読み聞かせ	
子育て支援内容	室内遊び。子供は施設内に備えられている絵本やおもちゃで遊ぶ。保護者は他の保護者やスタッフと交流する。特に決められたプログラムは無く、各自が自由に過ごす。 飲食可(主に昼食の時間とおやつの時間が施設によって決まっている。) スタッフへの子育ての相談が可能。	室内遊び。子供は施設内に備えられている絵本やおもちゃで遊ぶ。保護者は他の保護者やスタッフと交流する。特に決められたプログラムは無く、各自が自由に過ごす。 飲食可(主に飲食可の場所や時間が施設によって決まっている。) 絵本の貸出し可。返却期限1週間。 スタッフへの子育ての相談が可能。	児童会館・児童センターのスタッフによる親子のための教室。プログラムが決められており、スタッフ指導のもと、親子で体操・手遊び・読み聞かせ・運動・工作等を行う。	園庭開放の場合は外遊び。子供は施設内に備えられている遊具で遊ぶ。 ホール開放の場合は室内遊び。子供は施設内に備えられている絵本やおもちゃで遊ぶ。。特に決められたプログラムは無く、各自が自由に過ごす。 スタッフへの子育ての相談が可能。	保育園・認定こども園・幼稚園のスタッフによる親子のための教室。プログラムが決められており、スタッフ指導のもと、親子で体操・手遊び・読み聞かせ・運動・工作等を行う。	乳幼児のためのスペースでくつろぐことができる。子供は絵本、保護者は本・雑誌を読むことができる。絵本を借りることができる。返却期限は2週間。	ボランティアと図書館職員による絵本の読み聞かせの教室。プログラムが決められており、読み聞かせに加えて親子で手遊びやわらべ歌を行う。	外遊び 施設に備えられている遊具で遊ぶ。
対象者	乳幼児と保護者	乳幼児と保護者 小学生(午後からは小学生の利用が増	各クラスの年齢対象者と保護者 (月齢によってクラスが分けられてい	乳幼児と保護者	各クラスの年齢対象者と保護者 (月齢によってクラスが分けられてい	なし 誰でも利用可能	各クラスの年齢対象者と保護者	なし 誰でも利用可能
利用可能日時 頻度	3～5日／週(施設による)	毎日開館	各クラス1～4回／月ずつ(施設による)	主に1回／週	各クラス1～4回／月ずつ(施設による)	毎日開館	主に4回／月(約1回／1～2週間のペース	毎日
利用可能日時 時間	10:00～16:00/9:30～15:30 (施設による)	4～9月　10:00～18:00 10～翌3月　9:30～17:30	主に午前中の時間帯 1回30分～1時間程度	主に午前中の時間帯 1回1～2時間程度	時間帯は施設による 1回30分～1時間程度	月・火・水・土・日は10:00～18:00 木・金は10:00～20:00	0・1歳児クラスは10:10～10:40 /10:50～11:20/11:30～12:00 2・3歳児クラスは10:30～10:50 /11:00～11:20(施設による)	常時
利用可能日時 利用	開室時間内であればいつでも利用可 申し込み不要	開室時間内であればいつでも利用可 初回のみ登録が必要	各クラスの指定日時に参加 主に申し込み不要	指定時間内であればいつでも利用可 主に申し込み不要	各クラスの指定日時に参加 1カ月半～3カ月ごとに申し込み必要	開室時間内であればいつでも利用可 絵本を貸出しには初回のみ登録必要	各クラスの指定日時に参加 申し込み不要・途中入場不可	いつでも利用可能(晴天時) 申し込み不要
空間利用								
利用形態								
備考	保護者が子供を見守る形で自由に過ごす。スタッフは全体的に保護者・子供と接して見守りのサポートを行う。 他の保護者も含めてお互いに子供を見守るような環境ができている。	保護者が子供を見守る形で自由に過ごす。スタッフが積極的に見守りのサポートを行うことは少ない。 知り合いどおしでグループが形成される場合あり。	スタッフを中心としたクラス形式。スタッフの手本に合わせて保護者と子供が一緒にプログラムに参加する。同じクラスに参加していると他の参加者と知り合いになる場合あり。	保護者が子供を見守る形で自由に園庭やホールを利用する。	スタッフを中心としたクラス形式。保護者が子供と一緒にプログラムに参加する。申し込み制でクラスのメンバーが固定されるため、参加者どおしが親しくなっていく場合あり。教室終了後、育児サークルが結成される場合あり。	保護者が子供を見守る形で自由に過ごす。	スタッフを中心としたクラス形式。スタッフの手本に合わせて保護者と子供が一緒にプログラムに参加する。同じクラスに参加していると他の参加者と知り合いになる場合あり。	保護者自身が子供を見守りながら利用する。知り合いどおしでグループが形成される場合あり。同じ場所・同じ時間帯に利用していると他の利用者と知り合いになる場合あり。

図 1　子育て支援施設の概要

①子育て広場集中型：子育て広場の利用時間が長く、利用頻度が高い。【A-c】【C-c】【C-d】【C-g】の 4 事例。朝から夕方にかけて子育て広場を利用し、昼食や昼寝も子育て広場で済ませることがある。スタッフが子供の世話をしてくれるため、母親の負担を緩和することができる。特に子供が 2 人以上いる人にとっては 1 人だけでも他の人が面倒を見てくれることが大きな援助となる。子供が室内遊びに飽きた時は公園を利用する。

②公園集中型:公園の利用時間が長く、利用頻度が高い。【A-i】【A-j】【B-b】【C-h】の 4 事例。1 回の公園での滞在時間は短いが、1 日に朝と夕方の 2 回公園を訪れる場合が多いため、全体の利用時間が長い。子供の月齢が高いことが要因の一つ。月齢が上がることで外遊びの頻度が増加し、施設を利用した室内遊びは減少している。公園の利用頻度が高いため、子供が飽きないようにどの事例も 2 か所以上の公園を使い分けている。

③その他集中型：実家での滞在時間が長く、実家に帰る頻度が高い。【C-e】の 1 事例のみ。日曜日以外全て実家を訪れる。孫と会うことで親孝行になる。また、祖父母が子供の世話をしてくれるため母親の負担を緩和することができる。実家が近いことで可能となる。

④子育て広場集中型と公園集中型の混合型：子育て広場の利用時間が長く、利用頻度が高い。かつ公園の利用時間が長く、利用頻度が高い。【C-b】の 1 事例のみ。「子育て広場集中型」は昼頃から夕方の時間帯に子育て広場を利用し、夕方以降と午前中の早い時間帯は自宅にいる場合が多い。一方、「公園集中型」は夕方以降と午前中の早い時間帯に公園を利用し、昼頃から夕方の時間帯は自宅にいる場合が多い。2 つの生活パターンは外出時間と在宅時間が反転した関係にあり、これらの在宅時間を相互の外出時間に置換して混合した形がこの生活パターンである。この混合の要因として、5 歳、3 歳、1 歳の 3 人の子供がいて、月齢の幅が広いことがある。月齢の低い子供に適した室内遊びと月齢の高い子供に適した外遊びを併用することで混合が生じる。また、子育ての負担を緩和するため、週に 2 回、真ん中の子供を施設に預け、その間に買い物や家事を行う。

3）準一種集中型：外出時間の中で一種の施設の利用時間が大きな割合を占めるが、利用頻度が「一種集中型」ほど高くない。その引き換えに 1 回の利用時間は長い。

①準保育施設集中型：保育施設の利用時間が長いが、利用頻度は高くない。【A-g】【B-c】【C-j】の 3 事例。【A-g】は仕事復帰の準備として勉強するために週に 2 回認可外保育園を、【B-C】は 2 人の子供がいるため負担を緩和するために週に 2 回保育園の一時預りサービスを、【C-j】はパートをしているため週に 3 回パート先の企業の保育園を利用する。保育施設を利用する日以外は、子育て広場や公園を利用して子供を遊ばせる。

②準その他集中型：子育て支援に関する施設以外の場所の利用時間が長いが、利用頻度は高くない。【D-h】は実家の利用時間が長い。実家の利用は「その他集中型」と同様に、祖父母が子供の世話をしてくれることによる母親の負担の緩和としての役割が大きい。【D-i】はショッピングセンターの利用時間が長い。子供の月齢が低いことから、「在宅型」と同様に、外出は子供のためというよりも母親の気分転換としての役割が大きい。

4）多種集中型：一部の施設については長時間の利用が見られる一方で、他の施設については短時間の利用が分散して見られる。【A-d】【C-f】の 2 事例。2 事例とも子育て広場と実家については長時間利用が見られ、遊ぶ以外にも昼食や昼寝もその場で済ませる。一方で児童センターや公園の利用は短時間で遊びだけを行う。

表 2　利用車の属性 (子供の年齢順)

事例	家族構成	子供の年齢 (歳・月)			子供の進路	保護者の進路	地元	生活パターン
D-c	父・母・子 1	0・3	—	—	幼稚園	専業主婦	×	在宅型
D-d	父・母・子 1	0・3	—	—	保育園	育休中	×	在宅型
D-i	父・母・子 1	0・3	—	—	幼稚園 or 保育園	未定	×	準その他集中型
D-b	父・母・子 1	0・4	—	—	幼稚園	専業主婦	×	在宅型
C-i	父・母・子 1	0・7	—	—	保育園	新規仕事探す	×	多種規則分散型
D-h	父・母・子 1	0・10	—	—	保育園	育休中	○	準その他集中型
A-h	父・母・子 2	4	0・10	—	幼稚園	専業主婦	×	多種多様分散型
A-g	父・母・子 1	1・1	—	—	保育園	育休中	×	準保育施設集中型
B-e	父・母・子 1	1・1	—	—	幼稚園	専業主婦	×	在宅型
C-g	父・母・子 1	1・1	—	—	幼稚園	専業主婦	×	子育て広場集中型
D-j	父・母・子 1	1・1	—	—	幼稚園	仕事復帰 (自営業)	×	多種規則分散型
C-j	父・母・子 1	1・2	—	—	企業の保育園	パート就業済	×	準保育施設集中型
D-g	父・母・子 1	1・2	—	—	幼稚園	専業主婦	×	多種不規則分散型
A-d	父・母・子 1	1・3	—	—	保育園	育休中	○	多種集中型
A-c	父・母・子 1	1・4	—	—	幼稚園	専業主婦	×	子育て広場集中型
C-c	父・母・子 1	1・4	妊娠中	—	保育園	育休中	△	子育て広場集中型
B-d	父・母・子 2	3・8	1・6	—	幼稚園	専業主婦	×	多種不規則分散型
A-b	父・母・子 1	1・10	—	—	幼稚園	専業主婦	×	多種多様分散型
B-a	父・母・子 1	1・10	—	—	幼稚園	専業主婦	○	多種不規則分散型
A-a	父・母・子 2	3・11	1・11	—	幼稚園	専業主婦	×	多種多様分散型
A-f	父・母・子 2	5	2	—	幼稚園	専業主婦	×	多種多様分散型
C-e	父・母・子 2	2	0・5	—	幼稚園	仕事復帰 (自営業)	◎	その他集中型
D-a	父・母・子 1	2・0	—	—	幼稚園	専業主婦	×	多種規則分散型
B-b	父・母・子 1	2・3	—	—	幼稚園	専業主婦	×	公園集中型
D-e	父・母・子 2	4・11	2・6	—	幼稚園	新規仕事探す	×	多種多様分散型
A-i	父・母・子 2	3	2・7	—	幼稚園	専業主婦	×	公園集中型
B-c	父・母・子 2	2・8	0・4	—	幼稚園	専業主婦	×	準保育施設集中型
C-f	父・母・子 2	2・9	0・3	—	幼稚園 or 認定こども園	育休中	○	多種集中型
A-e	父・母・子 2	6	3	—	幼稚園	専業主婦	○	多種多様分散型
A-j	父・母・子 2	10	3	—	幼稚園	専業主婦	○	公園集中型
C-b	父・母・子 3	5	3	1	幼稚園	専業主婦	×	混合型
C-d	父・母・子 2	3	1	—	幼稚園	専業主婦	△	子育て広場集中型
C-h	父・母・子 3・祖父 (父方)	5	3	1	幼稚園	専業主婦	×	公園集中型
C-a	父・母・子 2	3・5	0・1	—	幼稚園	専業主婦	×	多種不規則分散型
凡例	赤字は子育て広場を利用する人物を示す / ◎: 父母ともに吹田市出身　○: 母のみ吹田市出身　△: 父のみ吹田市出身　×: 父母ともに他地域出身							

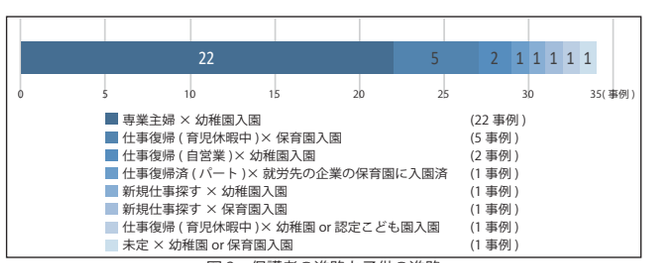


図 2　保護者の進路と子供の進路

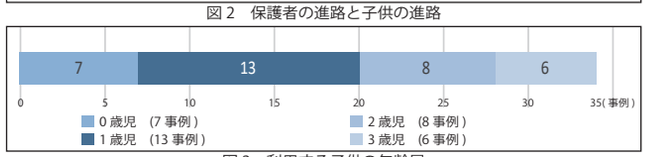


図 3　利用する子供の年齢層

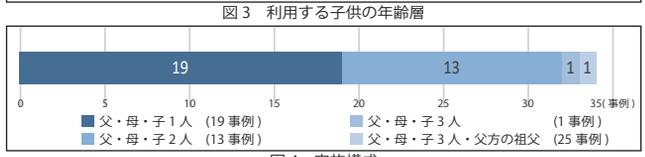


図 4　家族構成

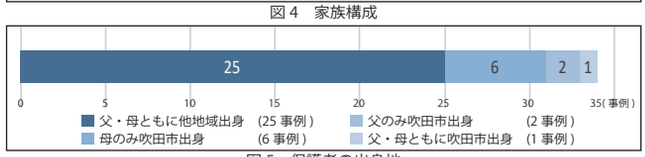


図 5　保護者の出身地

表 3　生活パターンの分類

外出時間による分類	施設の利用時間と利用頻度による分類		利用施設による分類		事例
非外出型					【B-e】【D-b】【D-c】【D-d】
外出型	一種集中型		子育て広場集中型		【A-c】【C-c】【C-d】【C-g】
					【C-b】混合型
			公園集中型		【A-i】【A-j】【B-b】【C-h】
			その他集中型		【C-e】
	準一種集中型		準保育施設集中型		【A-g】【B-c】【C-j】
			準その他集中型		【D-h】【D-i】
	多種集中型				【A-d】【C-f】
	多種分散型	多種規則分散型			【C-i】【D-a】【D-j】
		多種不規則分散型			【B-a】【B-d】【C-a】【D-g】
		多種多様分散型			【A-a】【A-b】【A-e】【A-f】【A-h】【D-e】

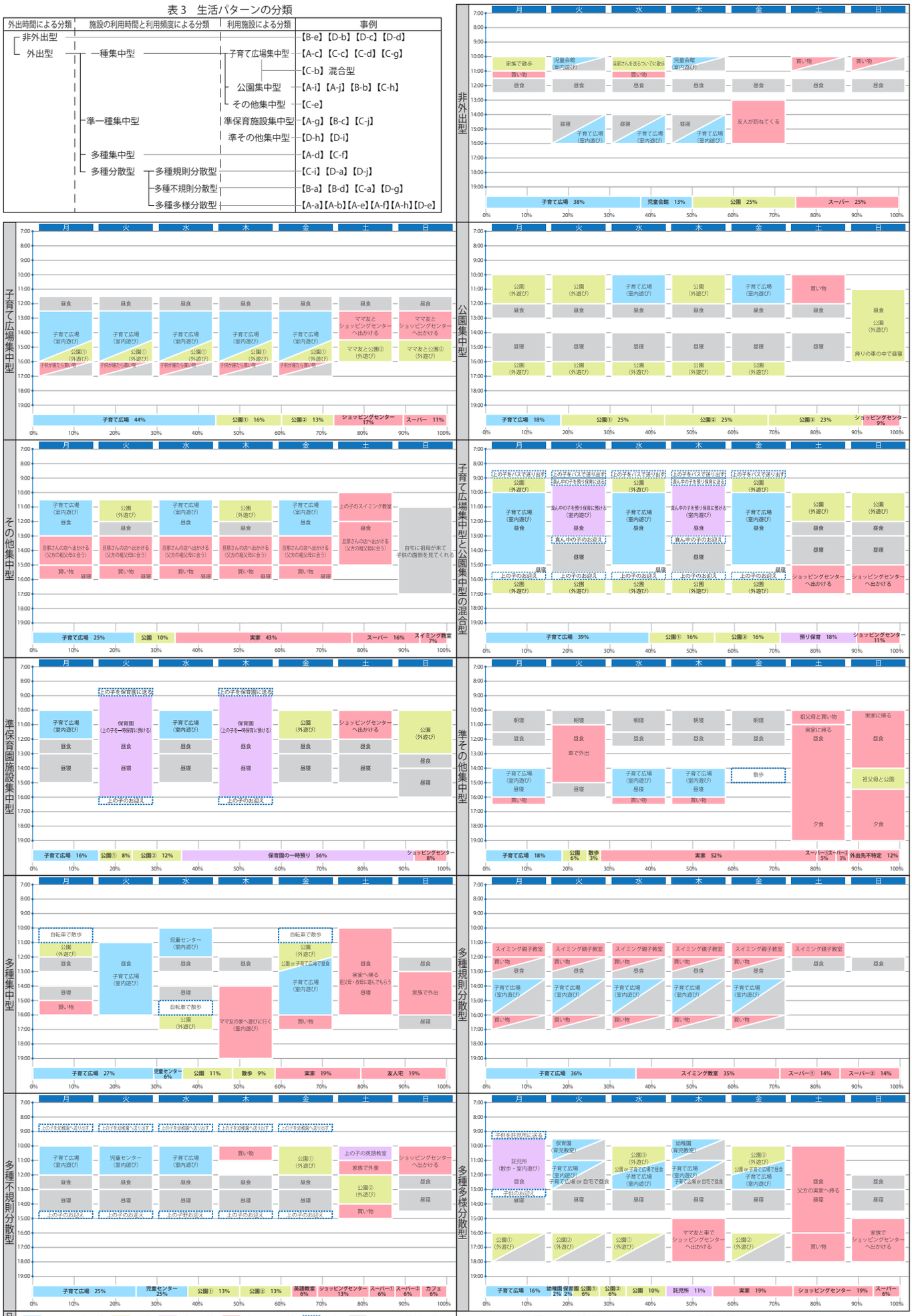


図 6　11 種類の生活パターンの 1 週間の過ごし方と利用の割合

施設によって役割が異なり、使い分けが行われている。

5) 分散型：利用時間の割合が数種類の施設に分散する。

①多種規則分散型：利用時間の割合が数種類の施設に分散し、かつ 1 日に複数施設利用する。1 日の過ごし方が固定されて規則的になっている。【C-i】【D-a】【D-j】の 3 事例。午前と午後で 2 種類の施設を利用し、自宅での昼食と買い物が間に入るパターンが多い。時間帯毎に過ごし方の選択の余地があり、それによって規則的な予定の中でもバリエーションが生まれる。

②多種不規則分散型：利用時間の割合が数種類の施設に分散し、かつ 1 日に利用する施設が基本的に一種類。1 日毎に利用する施設が変化して不規則になっている。【B-a】【B-d】【C-a】【D-g】の 4 事例。午前中にのみ外出することが多く、その外出時間も固定されている。昼食や昼寝は自宅ですることが多い。外出先は子育て広場、児童センター、公園等日によって様々。遊び場の種類を増やすために複数の施設を満遍なく利用する。

③多種多様分散：利用時間の割合が数種類の施設に分散し、かつ 1 日に複数施設を利用するとともに、利用する施設も変化する。【A-a】【A-b】【A-e】【A-f】【A-h】【D-e】の 6 事例。実に多様な過ごし方が見られるが、午前中は児童会館、児童センター、公園等へ出かけ、昼食は子育て広場でとり、夕方に公園へ出かけるパターンが多い。保育施設や実家の長時間利用も見られる。「多種集中型」にも見られる施設の役割による使い分けが、より細やかに行われている。午前中は比較的自由に動き回ることができる施設を利用して子供を遊ばせる。昼食時には子育て広場を訪れて、スタッフが子供の面倒を見てくれる間に母親自身が昼食をとる。夕方はもう一度動き回ることができる施設を利用して子供を遊ばせる。こうした施設の使い分けのパターンが多い。

4. 生活パターンによる子育て支援施設の位置付け

母親と子供にとっての機能、合計 13 項目の機能を定義し（図 7）、11 種類の生活パターンによる各施設の位置付けを分析する。以降、母親にとっての機能は二重かっこ《》、子供にとっての機能は一重かっこ〈〉で表す。

1) 非外出型：外出先として子育て広場、児童会館・児童センター、公園が挙げられる。子供の月齢が低いことから子供にとっての役割は小さく、《気分転換の場》としての役割が大きい。また、子育て広場や児童会館・児童センターは《喋りの場》でもある。しかし、子供の機嫌が悪い時の利用もあるため、多少は〈気分転換の場〉でもある。子供次第で利用時間が変化するため、利用時間の融通が利く《自由な場》としての役割もある。

2) 子育て広場集中型：子育て広場については、《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉としての役割に加えて、長時間の滞在で昼食や昼寝といった生活行動を行っていることから、《日常生活の場》としての役割がある。利用時間の融通が利く《自由な場》であることが長時間・高頻度の滞在を可能にしている。利用頻度が高いため、スタッフや他の利用者と知り合いになることで、《安心の場》、〈安心の場〉として機能するようになる。スタッフや他の母親が子供の面倒を見てくれることで子育ての負担が緩和される《休息所》の機能も果たす。特に自宅での子育てに疲弊してしまった母親にとって《避難所》の機能を果たすこともある。また、他の月齢の子供と接することによって刺激を受けることができる〈学びの場〉としての役割も期待される。公園は《遊びの場》、〈遊びの場〉としての役割に加えて、子供が室内遊びに飽きた時に利用することから、〈気分転換の場〉としての役割がある。子供の気分によっていつでも利用することができる《自由な場》としての役割もある。

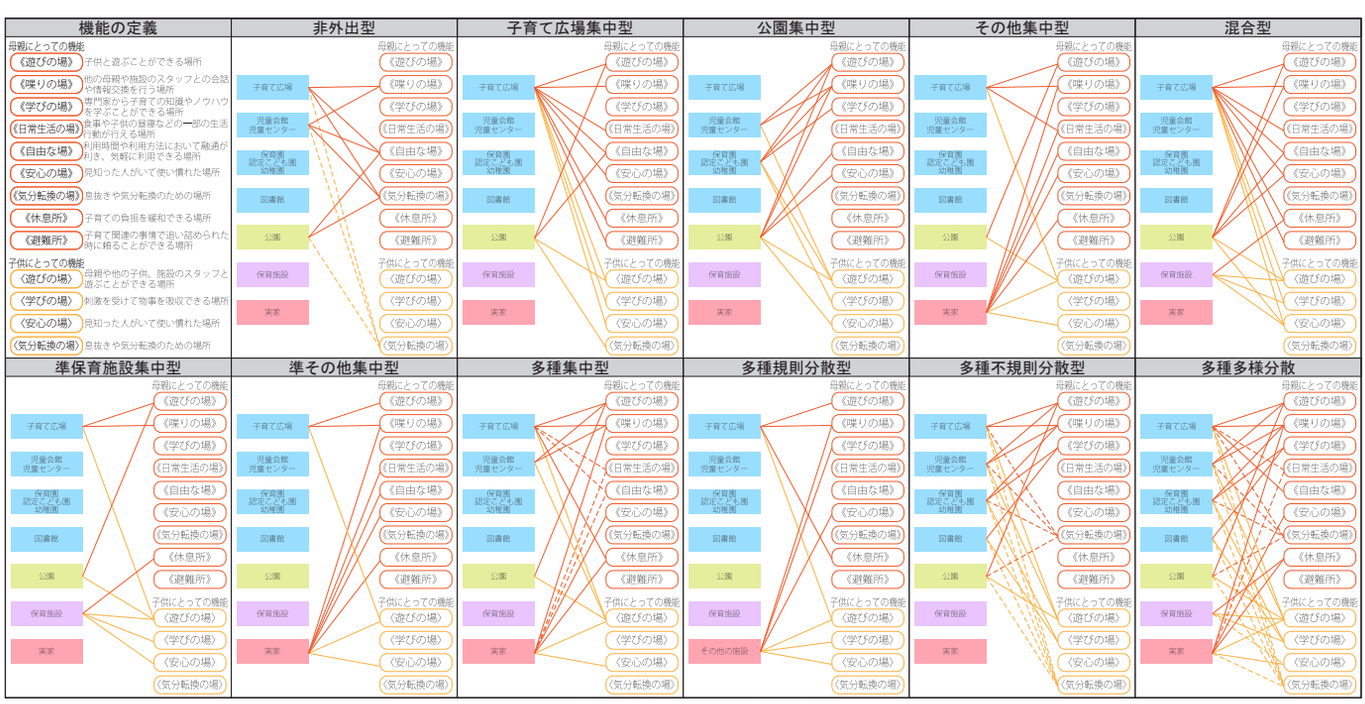


図 7　11 種の生活パターンによる施設の位置付け

3）公園集中型：公園は《遊びの場》、〈遊びの場〉としての役割が大きい。また、利用時間の融通が利く《自由な場》であることから１日数回の利用が可能となる。同じ時間に同じ公園の利用を繰り返すことから、母親と子供双方に知り合いができ、《喋りの場》、《安心の場》、〈安心の場〉として機能するようになる。その他、利用する機会は少ないが、子育て広場、児童会館・児童センターは《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉として、保育園・幼稚園の育児教室は《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉、《学びの場》、〈学びの場〉として機能する。

4）その他集中型：実家では長時間の滞在で昼食や昼寝といった生活行動の一部を行っていることから、《日常生活の場》としての役割がある。身内であることから利用に融通が利く《自由な場》であることが長時間・高頻度の滞在を可能にする。また身内であることで《安心の場》、〈安心の場〉として機能する。祖父母が子供の面倒を見てくれるため、〈遊びの場〉としての機能があり、子育ての負担が緩和される《休息所》としての機能も果たす。子育て広場については《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉としての役割に加えて、滞在時間は短いが昼食をとることから、部分的ではあるが、《日常生活の場》としての機能が見られる。公園については《遊びの場》、〈遊びの場〉としての役割が見られる。

5）混合型：子育て広場には「子育て広場集中型」と同様に《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉、《日常生活の場》、《自由な場》、《安心の場》、〈安心の場〉、《休息所》としての役割がある。公園には「公園集中型」と同様に《遊びの場》、〈遊びの場〉、《自由な場》、《喋りの場》、《安心の場》、〈安心の場〉としての役割がある。また、保育施設は子育ての負担が緩和される《休息所》として機能し、〈遊びの場〉、〈学びの場〉の機能に加えて、定期的に通うため〈安心の場〉として機能するようになる。

6）準保育施設集中型：保育施設には子育ての負担を緩和して母親の時間を確保するための《休息所》の役割がある。他の子供と遊んで刺激を受ける〈遊びの場〉、〈学びの場〉としての役割があるともに、定期的に通うことで友達ができ、〈安心の場〉として機能するようになる。子育て広場と公園については短時間の利用で《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉としてのみ機能する。

7）準その他集中型：実家については利用頻度は低いが「その他集中型」と同様に、《日常生活の場》、《自由な場》、《安心の場》、〈安心の場〉、〈遊びの場〉、《休息所》としての役割がある。ショッピングセンターについては、子供の月齢が低いことから子供にとっての役割は小さく、《気分転換の場》としての役割が大きい。子供次第の外出のため、利用時間の融通が利く《自由な場》としても機能する。子育て広場は短時間の利用で《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉としてのみ機能する。

8）多種集中型：子育て広場と実家は利用頻度は低いが長時間の利用が見られる。子育て広場には《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉、《休息所》としての役割に加えて、部分的に《日常生活の場》、《自由な場》としての役割がある。実家には《休息所》、《安心の場》、〈安心の場〉、〈遊びの場〉としての役割に加えて、部分的に《日常生活の場》、《自由な場》としての役割がある。児童会館・児童センターと公園は短時間の利用で《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉としてのみ機能する。

9）多種規則分散型：子育て支援に関する以外の施設として、スイミング教室、英語教室、リトミック教室を利用している。これらの施設は《学びの場》、〈学びの場〉、〈遊びの場〉としての役割があるともに、定期的に通うため《喋りの場》、《安心の場》、〈安心の場〉として機能するようになる。子育て広場は短時間の利用で《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉としてのみ機能する。

10）多種不規則分散型：子育て広場、児童会館・児童センター、公園等様々な施設を利用するが、それぞれが短時間の利用で《喋りの場》、《遊びの場》、〈遊びの場〉としてのみ機能する。毎日異なる施設を利用するため、《気分転換の場》、〈気分転換の場〉としても機能する。

11）多種多様分散型：全ての属性を複合したパターンであり、先述の各施設の持つ役割を使い分けている。さらに保育施設を利用する場合が多い。保育施設は子育ての負担が緩和される《休息所》として機能し、〈遊びの場〉、〈学びの場〉としての機能に加えて、定期的に通うため〈安心の場〉としても機能するようになる。

5. 結論

施設利用が 1 つの施設に集中する生活パターンにおいては、1 つの施設に様々な価値を見出すことで充実した生活を実現している。施設の利用者やスタッフと濃密なコミュニティを築くことができるというメリットがある一方で、生活の内容が単純化してしまうというデメリットがある。施設利用が分散する生活パターンにおいては、各施設の役割を使い分けることで充実した生活を実現している。日々の生活が母親と子供双方にとって刺激的なものとなり、広いコミュニティを築くことができるというメリットがある一方で、コミュニティの密度が分散してしまい、なにより母親と子供双方の体力が必要であるというデメリットがある。

課題として《休息所》の機能を持つ施設の不足が挙げられる。母親が《休息所》の機能を求めていることから、子育て広場と実家に利用が集中している。これらの 2 拠点のように、短時間でも母親が子育てから距離を置くことができる施設が必要とされている。

参考文献

1―友田愛子，瀬渡章子，大谷由紀子，田中智子 (2008)「地域における子育て親子の交流の場の運営に関する研究 ： 全国の地域子育て支援拠点事業「ひろば型」事業を対象として その 1」，日本建築学会近畿支部研究報告集 48 巻 pp. 525-528

―立奏晃次，小久保亮佑，小松尚 (2009)「つどいの広場事業 (地域子育て支援拠点事業ひろば型) における子育て支援の場の実態に関する研究」，日本建築学会学術講演梗概集 E-1 巻 pp. 37-40.

―内田彩香，鈴木毅，松原茂樹，奥俊信 (2011)「子どもと大人が同時に過ごす空間に関する研究 - 吹田市子育て広場を対象として - 」，日本建築学会学術講演梗概集 E-1 巻 pp. 187-188.